

新型コロナ対策を考慮し
右記にご協力頂きます

*今年度の実施は参加人数を制限し、個人間の距離を確保し実施します。
*マスクの着用、手指の消毒等にご協力頂きます。
*ご協力頂けない際には、ご退室頂く事もありますのでご了承ください。

オンライン(zoom)での参加も可能

※申し込み時にお知らせ下さい

申込方法

各開催日10日前までに、下記FAX・メール・HP申込みフォームから、必要事項を記入の上、お申込み下さい。

(HP申込みフォームが便利です。FAX・メールの方は、下記の必要事項を任意の様式でご記入下さい。)

FAX 092-739-6081 MAIL imai@idea-p.co.jp
HP https://kumuu.site/

受講条件 熊本県内在住で、農村地域においてむらづくり活動を支援・実践している(予定を含む)個人、市町村職員、NPO職員、自治組織及び任意団体の構成員等で有ること。

必要事項 氏名・年齢・性別・お住まいの市町村名・電話番号・E-mail・所属・現在の活動内容・本講座を通して学びたい事・受講を希望する講座

さらなる実践に向けて

アドバイザー派遣

本塾の受講者を対象に、専門的・実践的な知識と経験を有するアドバイザーの派遣を行います。意欲的に取り組む活動組織の課題解決の指導や、団体などの学習会や意識醸成などにぜひ、ご活用下さい。



条件 農山漁村地域におけるむらづくり活動に意欲的であり、アドバイザーを受け入れる体制が整っている任意の活動組織・NPO法人・各種団体・市町村等(1回×5箇所を予定)。派遣に要する謝礼・旅費はむらづくり課が負担します。会場等は、受け入れ団体でご用意下さい。

必要事項 下記HP申し込みフォームから、必要事項を記入の上、お申込み下さい。むらづくり課・事務局にて審査を行った後、選定した5箇所講師の選定・日程・内容等の調整を行い、アドバイザー派遣を行います。(お申込み頂いた全ての団体に派遣できるものではありませんのでご留意下さい。目的や意欲等を踏まえて審査いたします。)
HP https://kumuu.site/

お問い合わせ

事務局 イデアパートナーズ株式会社 TEL:092-739-6080(担当:宮路・今井)
熊本県農林水産部農村振興局 むらづくり課 TEL:096-333-2415(担当:川越)

令和3年度

熊本 むらづくり 人材育成塾

塾生募集

「熊本むらづくり人材育成塾」は、県内の意欲ある農業者や、農山漁村地域における多彩なむらづくり活動を展開する方々を対象に、講座を実施します。

今年度は、「持続可能なむらづくり」をテーマに基礎から実践的なスキルを身に付けられます。むらづくり活動に興味がある方、これまでの活動の取組みを更に魅力的にしたい方、むらづくり活動の仲間を見つきたい方のための講座です。今年の講座内容は、下の表のとおりです。むらづくりについて幅広く学べる内容ですので、ぜひご参加ください。

受講無料
各回30名程度

第1回	10月26日(火)	地方の課題を持続可能な仕組みで解決を考える。「人材育成」や「デザイン」の手法について学ぶ
第2回	11月9日(火)	いま、なぜSDGsが求められており、むらづくり活動とどう繋がっているのか実体験を通して学ぶ
第3回	11月30日(火)	農業×食×6次産業化を活かしたむらづくりの手法を実例を通して学ぶ
第4回	12月15日(水)	アウトドア市場の拡大と、ワーケーション・空き家・空きスペースを活用したビジネスについて学ぶ
第5回	1月18日(火)	農泊の実践者や九州の農泊の動きなど、いま取り組む事について学ぶ
第6回	2月15日(火)	今むらづくりに求められている事は何か、今できる事は何かを学ぶ

主催/熊本県農林水産部農村振興局 むらづくり課 事務局/イデアパートナーズ(株)

第1回 [日程] 10月26日(火) [場所] イデアITカレッジ阿蘇(南阿蘇)

現地研修

13:00(受付)~18:00(終了)

学びのポイント 地方の課題を持続可能な仕組みで解決を考える。「人材育成」や「デザイン」の手法について学ぶ

- ①13:20~13:30 開会・オリエンテーション
②13:30~14:10 現地紹介
③14:10~15:20 「地域の課題や資源を生かし持続的な取り組みにするために~マーケティングで地域の魅力を伝える~」 井手 修身
④15:20~15:40 質疑応答
⑤15:50~17:00 「地域の魅力を伝えるデザインのチカラ」 高山 美佳
⑥17:00~17:20 質疑応答
⑦17:20~17:40 参加者の交流「自己紹介を通してむらづくりの仲間を見つける」



井手 修身 [イデアパートナーズ株式会社 代表取締役・イデアITカレッジ校長]
熊本大学卒業。リクルートに入社して以来、観光振興、まちづくり、UI/UX人材誘致等の領域で、全国数多くのプロデュースを手掛け実績を上げる。2006年に「人材×マーケティング」で観光・集客事業の再生を行うイデアパートナーズ株式会社を起業。九州を中心に旅館・ホテルの再生支援と地域活性化のプランニングに携わる。南阿蘇村ITの推進に伴う専門学校の設立し、IT企業と共に地域課題の解決にも取り組む。



高山 美佳 [LOCAL & DESIGN株式会社 代表取締役]
巨峰農家に嫁いだのをきっかけに、教育や食、景観などの分野において都市と農村をつなぐプロジェクトに携わる。筑後こどもキャンパス、うきは森林セラピー・西鉄線線プロジェクトなど、全国各地のデザインを数多く手掛ける。ローカル(地域)に根ざした人材育成とともに、「今あるもの」を編み、伝え、新たな経済と定住につながるデザインを生み出す日々を送っている。



現地紹介 [イデアITカレッジ阿蘇&南阿蘇ITバレー協議会の紹介]

イデアITカレッジ阿蘇は、「ITビジネス学科」「国際ビジネス学科」を設けた専門学校です。また併設する「南阿蘇村ICT交流センター」では複数の企業がコワーキングスペースに入居予定で、南阿蘇の課題に対して「人材育成」と「企業協同」などを軸に解決を目指した拠点として今後オープンする予定となっています。



第2回 [日程] 11月9日(火) [場所] ホテル熊本テルサ・3Fりんどろ

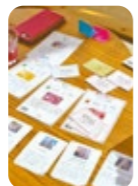
13:00(受付)~17:50(終了)

学びのポイント いま、なぜSDGsが求められており、むらづくり活動とどう繋がっているのか実体験を通して学ぶ

- ①13:20~13:30 開会・オリエンテーション
②13:30~14:30 「SDGsと持続可能なまちづくり」 眞鍋 和博
③14:30~14:50 質疑応答
④15:00~17:30 「SDGsを体感し理解出来るSDGs de 地方創生カードゲームの実践(※現地参加のみ)」 久保山 たかし&山香 匡司



眞鍋 和博 [北九州市立大学 地域創生学群 教授/サステナブル北九州 代表]
リクルートにて企業の人材採用、大学生のキャリア形成プログラムの開発営業を経て北九州市立大学着任。その後、地域創生学群長、地域共生教育センター長に特任。また、SDGs未来都市に選定された北九州を中心に「SDGs社内リーダー養成研修」を行うなど、SDGsに関する様々な講演やワークショップ・企業コンサルを行っている。



久保山 たかし&山香 匡司 [SDGs de 地方創生公認ファシリテーター]
【カードゲームの紹介】
このゲームはSDGsの目標を1つ1つ細かく勉強するためのものでは無く「なぜSDGsが私たちの世界に必要なのか」、そして「住人や行政として、まちづくりにどのように関わることができるのか」を体験的に理解するためのゲームです。熊本県内で「むらづくり活動」を実践している参加者さんはSDGsに繋がることが必ずあると思います。今回、カードゲームを通して本格的に学びましょう。

第3回 [日程] 11月30日(火) [場所] ホテル熊本テルサ・3Fりんどろ

13:00(受付)~17:10(終了)

学びのポイント 農業×食×6次産業化を活かしたむらづくりの手法を実例を通して学ぶ

- ①13:20~13:30 開会・オリエンテーション
②13:30~14:40 「売れなければ特産品とは呼べない! ~六次産業化・農商工連携の実践編~」 中野 幸浩
③14:40~15:00 質疑応答
④15:10~16:10 「持続可能なむらづくりに必要なこれからの農村ビジネスの組み立て方」 飯干 淳志
⑤16:10~16:30 質疑応答
⑥16:30~16:50 【卒塾生のいま】「観光農園を開設しその後の活動について」 柴尾 健二



中野 幸浩 [中野ユキヒロ商店 代表]
和食専門店を経て、魚料理への興味からスーパーの鮮魚売り部門の責任者に。その明るさと陽気なトークで名物社員となる。九州のムラ市場の立ち上げや運営に携わりつつ、消費者と生産者&地域を繋ぐ、活力を生み出す交流の場を築き上げる。現在は独立し、14年よりKBC九州朝日放送のラジオに出演、「九州の食文化」を伝える。15年3月にラジオ番組関連コーナーより出版された食育絵本「トマトくんのありがとう」の原案者。(文:徳永玲子、絵:二木ちか子)



飯干 淳志 [高千穂ムラたび協議会 会長]
54歳で高千穂町役場を早期退職し「高千穂ムラたび協議会」を設立。秋元地区に人を呼び雇用を生むために起業。地域の若者と共に「どぶろく」「甘酒」を生産しているほか、川の流れや蜂蜜などの料理を農家民宿などで提供。2016年「ディスカバリー農山漁村の宝」特別賞、2020年ふるさとづくり大賞個人受賞(総務大臣)



柴尾 健二 [たまなフラワーパーク]
弁当店を経営していたが体を壊し続けることが難しい状態になった時期に、ふと自宅の南に上って景色を見渡したとき、自分の住む地域のすばらしさを改めて実感。この地域のすばらしさを次の世代に伝え、つなげていくためには何をすればいいか考え、今まで自分が培ってきたノウハウや趣味の園芸を生かした観光農園を立ち上げることを決意し観光農園をオープン。

選択受講OK!!

興味のあるテーマだけ選んで受講もできます。申込多数の場合、選考・抽選となります。

※参加費は無料ですが、駐車場代等が必要な場合がありますので、ご理解の程よろしくお願いたします。

第4回 [日程] 12月15日(水) [場所] osoto Hitoyoshi(人吉)

現地研修

13:00(受付)~17:00(終了)

学びのポイント アウトドア市場の拡大と、ワーケーション・空き家・空きスペースを活用したビジネスについて学ぶ

- ①13:20~13:30 開会・オリエンテーション
②13:30~14:20 現地紹介 富山 孝治
③14:20~15:30 「日本のローカルの価値と可能性と課題ー野遊びを活かした地方創生ー」 後藤 健市
④15:30~15:50 質疑応答
⑤16:00~16:40 「人吉だからこそ出来る古民家再生事業」 村口 隆



富山 孝治 [一般社団法人 ドットリバー代表理事]
株式会社システムフォレスト代表取締役。福岡、熊本を中心に九州全域クラウド及びIoTインテグレーションとして活動中。一方で、一般社団法人ドットリバー代表理事として地方創生も手掛け、人吉市まち・ひと・しごと総合交流館「くまび」内のコワーキングスペース「osoto Hitoyoshi」を運営している。



後藤 健市 [スノーピーク地方創生コンサルティング株式会社]
大学卒業後、セールスプロモーション関連会社などを経て、地方創生の新たなアイデアを実現するための会社や団体の設立、場所の価値を生かした企画と実践、講演活動や人材育成、仕組みづくりに広く尽力。現在は、株式会社スノーピークのグローバル地方創生担当として、地域にある自然資源や景観、環境、食などを「野遊び」で楽しみながら地方創生する事業と、「Noasobi」のグローバル展開に取り組んでいる。



村口 隆 [株式会社NOTE人吉球磨代表/人吉市農泊推進協議会]
「田舎だから何もない」ではなく、人吉球磨にある原風景の価値を尊重し、磨きをかけて後世につなぐべく、2017年人吉球磨を愛する仲間とともに株式会社NOTE人吉球磨を設立。日本産産に認定された相良藩700年の歴史や、全国の鉄道ファンに愛される肥薩線沿線には多く残るの古民家を活かし、人吉球磨だから出来る古民家再生の町づくりに取り組み続けている。

現地紹介 [osoto Hitoyoshiの紹介]

osoto Hitoyoshiはキャンプ・アウトドアをテーマにした人吉にあるコワーキングスペースです。地域の「たまび」そして拠点になる活動を様々な行っており、同施設内には温泉や、仕事を紹介する事業も併設しております。



第5回 [日程] 1月18日(火) [場所] ホテル熊本テルサ・3Fりんどろ

13:00(受付)~17:10(終了)

学びのポイント 農泊の実践者や九州の農泊の動きなど、いま取り組む事について学ぶ

- ①13:20~13:30 開会・オリエンテーション
②13:30~14:30 「暮らしを仕事に! 農家民泊の忙しいスローライフ」 藤瀬 吉徳
③14:30~14:50 質疑応答
④15:00~16:10 「九州の農泊の現状と農山村にお客を呼び込む方法」 養父 信夫
⑤16:10~16:30 質疑応答
⑥16:30~16:50 【卒塾生のいま】「自然農を中心とした体感できる農山村の活動について」 西守 信二



藤瀬 吉徳 [農家民宿 具座]
福岡県三瀬村の代々続く農家で生まれ育った藤瀬さんが地元役職を退職して始めた「具座」は築100年の納屋を改装した1日2組限定のお宿。13周年を迎え、今では年間500人を受け入れている。五右衛門風呂の火炊きや山菜・タケノコ狩り、冬場の雪道歩きなど、四季を通じて、里山農家ならではのさまざまな体験を提供し続けている。



養父 信夫 [一般社団法人 九州のムラ]
1995年独立し「ムラの命をマチの暮らしに、マチの力をムラの生業に」を理念に、九州のグリーンツーリズムを拓く活動を開始。翌97年、雑誌「九州のムラ」を発刊。九州ムラ市場、九州ムラコレ市場、Gazoo MURAなどの企画立案なども行う。2014年度からは一般社団法人九州のムラを立ち上げ、観光地域づくりに関しては全国に、環境地域づくりに関しては郷里宗像に特化して活動を開始。



西守 信二 [アルモンデ・結熊(ゆうゆう)自然農園 ※本塾の卒業生]
福岡県出身。以前は全国転勤もあるエンジニアとして仕事をしていたが、妻からのこの暮らし変えない? という言葉をきっかけに山鹿市に移住。集落の方々からも受け入れてもらい、少しずつできることを増やしてきた。自分が学んだ自然農について教える勉強会を開き、炭焼きもスタート。また、訪れた人が休めるカフェを21年4月にオープン。

第6回 [日程] 2月15日(火) [場所] ホテル熊本テルサ・3Fりんどろ

13:00(受付)~17:20(終了)

学びのポイント 今むらづくりに求められている事は何か、今できる事は何かを学ぶ

- ①13:20~13:30 開会・オリエンテーション
②13:30~14:40 「食で繋げる地域の再生。苦難の中でも「今できる事・大切に生きて来良かった事」」 本田 節
③14:40~15:00 質疑応答
④15:10~16:20 「観光再生~コロナ渦で今すべきことは?」 村山 慶輔
⑤16:20~16:40 質疑応答
⑥16:40~17:00 【卒塾生のいま】「山鹿の観光拠点を開設しその後の活動について」 山本 博



本田 節 [有限会社 ひまわり亭 代表取締役]
熊本県球磨郡相良村の専業農家に生まれ、「ひまわりグループ」を結成し、ボランティアやまちづくり活動を始め。そこで出会った仲間たちと地産地消「食」を地域資源とした拠点、郷土の家庭料理「ひまわり亭」を立ち上げる。「食」を通じて、地域づくりへの貢献や食育活動、地元地域を巻き込んだ「広域連携によるグリーンツーリズム実践」なども推進。また、先の豪雨による被害を受けた翌日から炊き出しをはじめ2ヶ月あまりで5000食を届けた。炊き出しの様子を紹介した記事が紹介されると、全国から野菜や米が届き、その輪が広がりをみせている。



村山 慶輔 [株式会社 やまごころ]
株式会社やまごころ代表取締役。米国ウィスコンシン大学マディソン校卒。2000年にアクセンチュア株式会社戦略グループ入社。2007年より国内最大級のインバウンド観光情報サイト「やまごころ.jp」を運営。「インバウンドツーリズムを通じて日本を元気にする」をミッションに、内閣府観光戦略実行推進諮問委員会メンバー、観光庁最先端観光コンテンツインキュベーター事業委員をはじめ、国や地域の観光政策に携わる。近書に「観光再生サステナブルな地域をつくる28のキーワード」(プレゼンター)などがある。



山本 博 [落語カフェ七屋山本堂 ※本塾の卒業生]
千葉から山鹿に来て、10年ほど「山鹿もてなしたい」など、いろいろな活動をしてきたが、山鹿を含めた菊池川流域が日本遺産として認定される運びとなり、令和元年に「菊池川流域の恵み」体験協議会を立ち上げた。以前「九州沖縄農業センター」でのアンケート調査で、情報発信すれば必ず来訪につなげることができると確信、情報発信の拠点として「七屋山本堂」を立ち上げる。

